





体育祭応援（平成23年）



体育祭縄跳び（平成23年）



文化祭琴（平成23年）



県総体陸上（平成23年）



サバイバルウォーク（平成23年）



野球部壮行会（平成23年）



雪景色（平成23年）

平成23年  
TOPICS

- ・東北地方太平洋沖地震（東日本大震災）が発生
- ・FIFA女子ワールドカップドイツ大会が開催され、なでしこジャパンが優勝
- ・エジプトのムバラク政権、リビアのカダフィ政権が崩壊（アラブの春）
- ・北朝鮮の最高指導者である金正日が死去。後継は三男の金正恩

- |      |      |                     |                  |
|------|------|---------------------|------------------|
| 3年2組 | 二宮早季 | 第57回青少年読書感想文全国コンクール | 入賞               |
| 3年2組 | 清家将徳 | 平成23年度全国高等学校総合体育大会  | 陸上競技 5000m 競歩出場  |
| 3年2組 | 川崎 強 | 平成23年度全国高等学校総合体育大会  | 陸上競技 円盤投出場       |
| 3年1組 | 米木千遥 | 平成23年度税に関する作文       | 八幡浜税務署長賞         |
| 3年1組 | 西浦由依 | 私の主張コンテスト           | 第1位「目標+努力=∞の可能性」 |



インターハイ壮行会（平成24年）



陸上競技四国大会（平成24年）



防災避難訓練学校裏山へ（平成24年）



鑑賞文楽（平成24年）



文化祭（原爆絵本～あの夏の日～）（平成24年）



私の主張コンテスト（平成24年）

平成24年  
TOPICS

- ・東京スカイツリー開業
- ・自民党総裁・安倍晋三が内閣総理大臣に再就任。自公連立政権が発足
- ・山中伸弥がiPS細胞でノーベル生理学・医学賞を受賞
- ・ロンドンオリンピック（第30回夏季オリンピック）開催

- 3年1組 三好祥平 平成24年度全国高等学校総合体育大会 陸上競技 5000m 競歩出場  
 3年2組 越知沙月 平成24年度全国高等学校総合体育大会 陸上競技 やり投出場  
 3年1組 吉住愛美 平成24年度税に関する作文 八幡浜税務署長賞  
 3年1組 西中亮太 私の主張コンテスト 第1位「三瓶湾と共に～未来に向かって～」  
 邦楽部 愛媛県高校総合文化祭〈日本音楽部門〉最優秀賞受賞（県代表、全国大会出場決定）



沖縄修学旅行（平成25年）



三瓶中との合同文化祭（平成25年）



邦楽部全国高文祭前日リハ（平成25年）



三瓶中との合同文化祭（平成25年）



邦楽本番後正面玄関前（平成25年）



井上理砂子 英語スピーチコンテスト優秀賞（平成25年）

平成25年  
TOPICS

- ・NHK連続テレビ小説「あまちゃん」がブームに
- ・黒田東彦が日銀総裁に就任。大胆な金融緩和を開始する
- ・楽天イーグルスの田中将大が連続勝利投手で日本プロ野球記録を更新
- ・『和食 日本人の伝統的な食文化』が無形文化遺産に登録される
- ・ロシアのチェリャビンスク州に隕石が落下

邦楽部 全国高等学校総合文化祭〈日本音楽部門〉文化連盟賞  
1年1組 佐々木愛 私の主張コンテスト 第1位「音楽、部活、そして私」



体育祭 (平成26年)



グループマッチ (平成26年)



文化祭 (平成26年)



救急救命講習 (平成26年)



野球応援 (平成26年)

平成26年  
TOPICS

- ・日本一の高さを誇る超高層ビル「あべのハルカス」開業
- ・宇宙飛行士の若田光一が日本人初の国際宇宙ステーションの船長に就任
- ・ノーベル物理学賞受賞者に赤崎勇・天野浩・中村修二の3人が決定
- ・ソチオリンピック (第22回冬季オリンピック) 開催

- 2年2組 井上浩輔 平成26年度全国高等学校総合体育大会 陸上競技 5000m 競歩出場
- 3年1組 三好梨乃 平成26年度税に関する作文 八幡浜税務署長賞
- 3年1組 浅野駿平 私の主張コンテスト 第1位「最高の仲間と共に」
- 3年1組 城戸七海 平成26年度心の輪を広げる体験作文 優秀賞「知的障害者の差別」



まほろば (平成27年)



みきゃん応援隊発足 (平成27年)



修学旅行沖繩 (平成27年)



マラソン大会 (平成27年)



奉仕活動 (平成27年)



文案鑑賞会 (平成27年)



卒業式答辞 (平成27年)

平成27年  
TOPICS

- ・イスラム過激派ISILによる日本人拘束事件により2名が犠牲
- ・ノーベル生理学・医学賞に大村智、ノーベル物理学賞に梶田隆章が選出される

3年1組	井上浩輔	平成27年度全国高等学校総合体育大会 陸上競技 5000m 競歩出場
3年1組	堀内遥平	平成27年度全国高等学校総合体育大会 陸上競技 やり投出場
3年1組	堀内遥平	平成27年度国民体育大会 陸上競技 少年Aやり投 3位
3年1組	堀内遥平	私の主張コンテスト 第1位「大きな舞台を経験して」
2年2組	濱本菜帆	平成27年度心の輪を広げる体験作文 優秀賞「障害者差別について」
3年1組	井上理砂子	平成27年度高校生英語スピーチコンテスト 第3位
2年2組	二宮 晟	平成27年度税に関する作文 高松国税局長賞



奥地の海のかーにばる (平成28年)



県総体開会式 (平成28年)



やり 県総体陸上競技 (平成28年)



PTA 授業参観 (平成28年)



体育祭 (平成28年)



修学旅行 (平成28年)



体育祭 (平成28年)

平成28年  
TOPICS

- ・熊本地震発生。震度7を2回観測。死者267人、避難者数は183,882人
- ・オートファジーの仕組みの解明で、大隅良典がノーベル生理学・医学賞受賞
- ・リオ五輪開催
- ・バラク・オバマ大統領の広島訪問
- ・アメリカ大統領選でドナルド・トランプが勝利

邦楽部 愛媛県高校総合文化祭〈日本音楽部門〉優秀賞受賞 (県代表、全国大会出場決定)  
3年2組 高橋里奈 私の主張コンテスト 第1位「三年間で得たもの、そして夢」  
1年2組 亀島瑠李 平成28年度第49回音楽鑑賞教育振興作文の部 文部科学大臣賞 最優秀賞



邦楽部全国大会（平成29年）



サバイバルウォーク（平成29年）



体育祭（平成29年）



文化祭（平成29年）



体育祭（平成29年）



防災避難訓練（平成29年）



野球応援（平成29年）



人権・同和教育ホームルーム活動（平成29年）

平成29年  
TOPICS

- ・中学生プロ棋士の藤井聡太が公式戦新記録となる29連勝
- ・製造業大手の不祥事が多発。無資格者による完成品検査や品質データを改ざんなど発覚
- ・日系英国人のカズオ・イシグロがノーベル文学賞を受賞
- ・陸上の桐生祥秀が日本人選手初の公認記録100m走9秒台を達成
- ・韓国で朴槿恵が大統領職を罷免され、文在寅が大統領に就任

邦楽部 全国高等学校総合文化祭みやぎ総文2017〈日本音楽部門〉出場  
愛媛県高校総合文化祭〈日本音楽部門〉優秀賞受賞  
吹奏楽部 六校合同吹奏楽コンサート出演  
2年1組 井上美都 私の主張コンテスト 第1位「頑張る自分が好き」



8校合同吹奏楽コンサート（平成30年）



サバイバルウォーク（平成30年）



スポーツテスト（平成30年）



県総体壮行会（平成30年）



野球応援（平成30年）



商店街シャッターアート制作（平成30年）



木育サミット（かななフラワー）参加（平成30年）

平成30年  
TOPICS

- ・平昌オリンピック開催。日本は冬季過去最多のメダル13個を獲得
- ・7月初旬の集中豪雨により、西日本で多くの河川が氾濫。死者200人を超える甚大な被害となる
- ・自民党総裁選挙で安倍晋三首相が3選。後に第4次安倍改造内閣発足
- ・テニス全米オープン決勝で、大坂なおみが日本人選手初となる優勝
- ・歌手の安室奈美恵が引退
- ・築地市場が83年の歴史に幕。豊洲市場が開場する
- ・イギリスのヘンリー王子とアメリカの女優メガン・マークルが挙式

吹奏楽部 八校合同吹奏楽コンサート出演  
2年1組 酒井琴菜 私の主張コンテスト 第1位「芸術への想い」



県家庭クラブ研究発表大会 最優秀受賞 (令和元年)



400mH 沖縄インターハイ (令和元年)



ジオクルーズガイド (令和元年)



かんなフラワー講習会 (令和元年)



文化祭 (令和元年)



「えひめスーパーハイスクールコンソーシアム in 南予」 (令和元年)



ベトナム人技能実習生との国際交流会 (令和元年)

平成31年  
(令和元年)  
TOPICS

- ・日本は国際捕鯨委員会 (IWC) を脱退。商業捕鯨再開される
- ・日本は韓国をホワイト国リストから除外。韓国は日本製品不買運動で応じ、戦後最悪ともいえる日韓関係に陥る
- ・ゴルフ全英女子オープンで、渋野日向子が優勝。
- ・日本の消費税率が8%から10%に変更され、軽減税率も導入される
- ・沖縄県那覇市の首里城で火災が発生
- ・吉野彰がノーベル化学賞を受賞

- 3年1組 清家康太 令和元年度全国高等学校総合体育大会 陸上競技 400mH 出場
- 1年1組 宇都宮美風 私の主張コンテスト 第1位「三瓶高校の未来のために」
- 3年1組 片山凜香 令和元年度税に関する作文 八幡浜地区租税教育推進協議会会長賞



1年生総合学習（令和2年）



野球部夏の大会（令和2年）



100周年記念写真撮影（令和2年）



公営塾オープン



クラスマッチ



地域みらい留学



音楽遠隔授業

令和2年  
TOPICS

- ・新型コロナで政府が全国小中高の休校要請
- ・高校野球が春夏中止。プロスポーツ界でも延期や中止相次ぐ
- ・東京五輪・パラリンピックが来年に延期
- ・安倍首相、持病を理由に辞任。連続在職は7年8か月で歴代最長
- ・菅首相誕生 新内閣発足
- ・野口聡一さん搭乗の米民間宇宙船打ち上げ成功
- ・はやぶさ2 カプセル帰還

2年1組 亀島優希 私の主張コンテスト 第1位「オンラインで変える未来」  
3年1組 片山李琉 創立百周年記念シンボルマーク作成

# 1年生 (自分に対して一言)



モテ期がほしい。。。!!

菊池 海澄

自分らしく生活する!!

河野 瑞己

自分のしたいことを見つけ、極める!

宮本 陽輝



楽しむ青春! みんなでenjoy!

山本 辰志

クラスみんなと思い出を  
 いっぱい作る!

山本 真尋



文武両道で勉強と部活を  
 両立させる!

梶原 夢陽

## 2年生（学校生活を折り匂で振り返る）



集団行動に汗を流した思い出の体育館



みんなで語り合った中庭



いつも笑い声の溢れる校舎



いつも胸にあるのは「三瓶スピリット」

大きな体に小さな声！と叱られ続けた1年間。  
 きょじんと言われるのに慣れはじめた1年間でした。  
 なかを深めて切磋琢磨し合ったこの1年間。  
 夢であってほしい、クラスマッチで負けたこと。  
 をおおおおおおお！この気持ちを忘れない！  
 持つべきものは友だと学んだ。  
 つみかさねてきた漢字検定3級合格！  
 小（しょう）もないことでゲラゲラ笑い合った、最高の同期。  
 さんざんだった令和2年！今年はいいい年にするつもり！  
 なにごとにも全力ブレイク三高生！その気持ちを忘れない！  
 学校から見えるガードレールに恋して早や2年（笑）  
 校内クラスマッチ、頑張った！  
 ！！マンツーマン！！  
 三つの性を心に掲げ、過ごしてきた高校生活。  
 瓶（ビン）に思い出を詰め込んだ学校生活。  
 分かち合ってきた友達は一生涯のタカラモノ  
 校内で一番の元気者！

山城 真唯	廣光 愛実	田中 詩織	小林 由	宇都宮美風	山本 天大	山本 快碧	山下 太輝	松木 心	西田 拓哉	中島 陽汰	立川 藍都	後藤 大輝	菊池 遥翔	亀島 優希	石田 拓海	浅井 龍空
-------	-------	-------	------	-------	-------	-------	-------	------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------

## 3年生 (学校・仲間に伝えたい思い)



最高の仲間と、慣れ親しんだホームルーム教室で!!

高校生活楽しかった。最高の思い出をありがとう!!  
百周年最高の仲間と最高の思い出

三瓶分校百周年おめでとう!!

三瓶分校で学んだことを将来に生かそう!

31Rの25人が3年間欠けることなく、楽しかった

三瓶分校で個性豊かな仲間に出会えました

様々な経験をすることができました。

みんなありがとう。

みんなに感謝しています。ありがとう。

いつも支えてくれる学校、

仲良くしてくれている友達に感謝。ありがとう。

記念すべき百周年 刻み込もう

毎日サイコーでした。三瓶分校で良かった。

みんな本当にありがとう。

3年間、毎日友達という時間を大切に過ごした

最高の友と思いい出をくれた学校に感謝

三瓶高校百周年 残りの高校生活を楽しもう

三瓶高校でよかったと思える3年間にしてくれてありがとう

学年をこえて仲が良かったってすごく良いなと思うことができました。

ズッ友

『感恩戴徳』いつも温かく支えてくれる学校や友達に感謝です。

みんな いつも ありがとう

創立百周年おめでとう。みんなたくさんさんの思い出をありがとう

出会ってくれた皆に感謝

3年間 みんなと過ごせてよかったです。ありがとう。

成長できる場所。たくさんさんの思い出をありがとう!

元気で明るい皆が大好き

みんなのおかげで充実した学校生活でした。

3年間、この仲間と活動できて良かったです! ありがとう!

井上 天斗

井上 璃久

垣内 祥希

菊池 真一

菊池 麗央

河野 賢人

澤野 涼太

田中 健太

西中 千晴

松本 祐輔

宮本 良貴

三好 律輝

吉見 光竣

井上 咲姫

植田 朋香

片山 李琉

河本萌々花

竹内ももな

中田 未来

西川 真由

濱田 茉乙

松井 鈴奈

松下 奈穂

三浦 梨紗

山口 麻紘



## 三瓶分校に学ぶ

第28代校長（平30～令元年度在職）

星川 志朗

平成30年4月、私は新米校長として三瓶高校に赴任することになりました。赴任して分かったのですが、地域の人口減少と少子化のさらなる進行が予想される中、三瓶高校存続の努力は報われるのか、少人数のため様々な教育活動が制約を受ける学校生活で、生徒は幸せなのか、という問いかけが学校内に少なからずありました。しかし目の前に生徒がいる。その生徒たちに三瓶高校を選んだことを後悔させてはならないという思いは、全教職員共通のものでした。

平成30年7月7日、西日本豪雨災害が発生しました。応援に行こうにも交通手段がないという生徒の声に、すぐに全校生徒から災害ボランティアの希望を募り、保護者の了解のもと、15日には、学校を挙げて野村地区に駆け付けました。小規模校だからこそできる保護者と教職員と生徒の連携でした。

今思い返しても、教員・職員の皆さんは、本当に生徒一人一人に愛情と情熱と責任をもって、細やかに、丁寧にかかわってくれました。その結果、様々な体験や地域・他校との交流が生まれ、生徒諸君は大きく成長しました。生徒数が減少した分を工夫で補い、一人一人が大きな力を発揮して仲間を支え、やり遂げてくれました。進路面でも自分のやりたいこと、進みたい道を明確にし、みごとに実現してくれました。

その一方で私たちは「主体的・対話的で深い学び」を推進し、それを学校の魅力化につなげるため、三瓶高校公営塾の創設に取り組みました。藤原教頭の熱意と西予市長管家一夫様をはじめ本当にたくさんの方々のご協力で、令和2年度より、三瓶分校をスタートに西予の高校に公営塾が設置されることになりました。今一度、この場をお借りしてご支援くださった全ての皆様にお礼を申し上げます。夢に向かって動くと、未知の人との出会いがあり、つながりが生まれることを教えていただきました。

令和2年9月5日、宇和高校で開催された三瓶分校創立100周年記念体育祭。チーム三瓶として49人が一丸となって、各チーム約80名の宇和高校に挑み、総合2位の立派な成績を収めました。しかしそれ以上に君たちの笑顔がうれしかった。本校と分校の連携が、新しい学び・学校行事の形を生み出した瞬間でした。

三瓶分校でしかできないことがあります。三瓶分校だからこそできることがあります。それらはきっと、県下の高校が学ぶべきものであるはずです。

最後に、宇和高等学校三瓶分校創立100周年を心からお祝い申し上げます。



## 100周年を祝して

第24代校長

片山 茂

私の教員生活最後の勤務校は三瓶高校、そして吉田高校であった。両校とも奇しくも、ときの海運界先覚者であった山下亀三郎氏が創設者という縁を持つ。創設されたのは、山下実科高等女学校。地方文化の向上と女子教育の興盛のためにと創設されたこの学校は、地域の人々の学校への溢れる厚情に後押しされ、素晴らしい校風と伝統を築き、100年という大きな節目を迎えたのかと感慨深く思っている。

私の在職中に、創設90周年という、一つ前の大きな節目を迎えた。生徒・職員・地域の皆さんがひとつになって「90年の軌跡を胸に今、新たな挑戦」のテーマのもと、行事に取り組んだ日々が、今も懐かしく思い出される。

行事は、4月サバイバルウォークからスタート。学校から宇和町運動公園往復27キロの完歩。足にまめが…の音が飛びかった。

5月には高校野球全国区の高知明德義塾高校を招いての招待試合。馬淵監督が本校出身であったことから実現した祝賀試合で、本校野球部には緊張と喜びの思い出の1日となったと思う。

暑い夏には、海を有する本校ならではの遠泳等の行事。記念体育祭では記念Tシャツ全員着用で、一体となり大いに盛り上がった。今も手元にあるこのTシャツを見ると暑かったあの目、生徒たちの熱い演技が蘇ってくる。

11月の記念式は、90周年を祝う多くの来賓の皆さんが来校、次なる100年を目指す決意がみなぎる1日となった。

翌月の特別講演会に、時の日弁連会長である宇都宮健児氏を迎えた。幼少のころは貧しかったが幸せだったと、家族で力を合わせて生き抜いてきた人生を語られ、生徒たちも深い感銘を受けていた様子であった。宇都宮氏もこの三瓶高校を、その後全国各地での講演先で語られていると聞く。

90年から100年に向かうこの10年で、時代は大きく変わっていった。少子化の波を受け本校も分校となったが、地域の中で生きる本校の姿は、これからも色あせることはない。祝100周年。



## 「ユーモア」たる所以

旧職員

和家 哲也

私の三瓶高校での勤務は、平成18年度から22年度までの5年間で、創立90周年を終えて転勤となった。この5年間は私にとって、学校という概念を変えるとともに、後の教員生活に大きな影響を与える5年間となった。その5年間で一言で表現するならばと考えているうちに、自然とにやけている自分に気が付いた。にやけている理由は、私の選んだ言葉が「ユーモア」だったからである。

「ユーモア」とは、人を和ませるおかしみのこと。ただ笑いを取るのではなく、そこには品格や気遣いが必要である。相手を不愉快にさせる笑いや、下品な笑いはユーモアとは言えず、自然と相手が笑ってしまうような、品があつて？心が和む笑いがユーモアなのである。

以下に挙げる「ユーモア」を生み出すために必要な要素と三瓶高校の校風、三瓶町の土地柄に共通点が多いことが、この言葉を思い浮かんだ理由である。

### 1 発想が柔らかく、柔軟に対応できる学校

何でも決めつけてしまったり、こうでなければいけないと思うことが多いと、相手を認めたり予期せぬ出来事に対応できなくなってしまうが、三瓶高校は、小さな学校であることを最大の武器に、いろいろな意見を素直に受け止め、コミュニケーションによって様々なことを突破してきた。(固定概念にとらわれない発想力)

### 2 些細なことも楽しく幸せと感じられる学校

日常の何気ないことも、見方を変えながら幸せや楽しみに変えながらの学校生活。物事を多方面から捉える“視野の広さ”を持った学校。(物事を多角的にとらえる観察力)

### 3 引き出しが多い学校

地域の方々からの意見や情報を取り入れるのが得意な学校であり、地域の協力、地域との一体感というのは、他では味わえないものであった。(会話を重視したコミュニケーション力)

以上のことに加え、町のいたるところに「ユーモア」が溢れていることから、三瓶高校＝「ユーモア」という言葉に結びついたのである。

「三瓶高校のユーモア」を潤滑油として、愛媛県立宇和高等学校三瓶分校へと歴史が語り継がれていくことを心から祈っております。



## 学舎よ、永遠に

前PTA会長

清家 剛

三瓶高校同窓生の皆様及び在校生の皆さん、この度は、三瓶高校創立100周年、おめでとうございます。私は、令和元年度PTA会長を務めさせていただいた清家剛と申します。私は三瓶高校の卒業生ではなく、三瓶町出身者でもございません。この三瓶高校創設者、「山下亀三郎翁」の出身地である吉田町喜佐方の生まれでございます。そのため、山下氏が三瓶町に女学校を創設していたことは、小学校の頃より知っていましたが、その時は、まさか自分が三瓶の地に住むとは思っていませんでした。それが三瓶高校のPTA会長になるとは...

この原稿を書くにあたり、少し90周年記念誌を読ませていただきました。当時の学校の様子や卒業生、歴代の先生方の文章から、かつての三瓶高校の賑わいや伝統を読み取ることが出来ました。しかし、誰が今日の三瓶高校を予想できたでしょうか。少子化の影響で生徒が減り続け、今年令和2年度から三瓶高等学校は、宇和高等学校三瓶分校となってしまいました。しかし、学校名が少し変更になりましたが、この三瓶の地に高等学校が存続していることには変わりありません。在校生も一人ひとり夢や希望を持ち、それを叶えるため日々、充実した学校生活を送っています。それは、きっと第二山下実科高等女学校ができた100年前と同じなのではないでしょうか。学校で学べる喜び、かけがえのない友との語り、何時までも色褪せない思い出...。同窓生の皆様もこの校舎で過ごされた3年間は、かけがえのないものだったのではないのでしょうか。

今、三瓶分校は存続の危機に直面しています。この危機を乗り越えるために、学校も新たなチャレンジをしています。生徒の全国募集、地域みらい留学への参加、公営塾の開設と高校の魅力づくりに力を注いでいます。この取組が生徒にとっても、地域にとっても実りあるものになると私は思います。今以上に同窓生の皆様、地域の皆様にはご理解、ご協力をお願いいたします。

この学舎に今後も生徒の笑顔が絶えることなく存続することを願っています。



## 三瓶高等学校の思い出と お願い

昭和43年度卒業

竹崎 幸仁

私たちの時代は、各学年5クラスの250名ずつが在籍しており、谷道川と平行に建った木造校舎での学びだった。当時は海側にあった校門を入ると、左手にテニスコートと木造の体育館、右手には比較的新しい図書館があり、正面に玄関と職員室が建っていた。卒業するまでに大半の建物は、体育館を残して山側へ平行移動し、同時にグラウンドの拡張も行われ、今日の広さとなったのである。暑い日の芝生植えの作業は、地獄の校内マラソン大会とともに、苦しい思い出として鮮明に記憶されている。男子は周木の往復15キロで、入学前に廃止された遠泳の方がよかったのにと、ボヤきあったことも懐かしい。

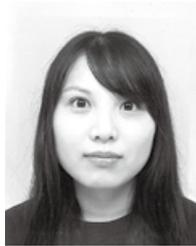
厳しかった父親に反抗して仕送りを止められた学生時代、板橋区の最も安いアパートに住んでいた私の部屋には、同級生や後輩達が入れ替わり立ち替わり集まっていた。自然発生的に「三瓶弁を守る会」ができ、池袋等で会合を持ったが、そこでの一番の思い出は、美しく着飾り垢抜けた東京人らしい出で立ちの美女の、遅れてきた仲間への発言だった。

『あなた、どひち！なひろ～！』一緒に待っていた仲間達のあ然とした表情は今でも浮かんでくる。

『ほげな、めんどしことゆうなや』の一言で場が和み、それから三瓶弁を堂々と使うようにしたのである。ただし、それは会合を開いたときのみで、平素は無理して東京弁（標準語への皮肉？）を使用していた。これも思い出の一つである。（笑）

令和2年4月、100周年を迎えた三瓶高校は、残念ながら宇和高校三瓶分校となった。今のところ、分校となった高校の大半は廃校への道をたどっている。来年と再来年の2年間に31名の入学生がいないとき、三瓶分校は募集停止となり、廃校へと歩まざるを得なくなるだろう。私たちの卒業した、思い出深い母校がなくなることが身近な問題となっている現在、何とか存続させなければと活動している。

卒業生の皆さん、今こそ母校を守るためのアイデアが必要です。どうか存続のための提言をお送りくださいますよう、よろしく願いいたします。



## 私を変えてくれた3年間

平成25年度卒業 家庭クラブ会長

栗焼 菜月（旧姓：藤井）

この度は、三瓶高校創立100周年おめでとうございます。卒業生としてとても嬉しく思うと共に、この伝統ある三瓶高校で学べたことを誇りに思います。

私が卒業して早8年。高校生活を振り返ってみるとこの3年間で私自身大きく変わることができました。

特に私を成長させてくれたのが、家庭クラブでの活動です。家庭クラブの活動では、地域の方々と触れ合うことが多く、たくさんのことを学ばせてもらいました。その中でも一番思い出に残っているのは、保育園、幼稚園との交流です。バザーのお手伝いをさせていただいた際には、先生や保護者の方々が何も分からない私たちに優しく教え支えてくださいました。バザーが終わった後に「手伝ってくれてありがとう」といっていただき、こんな私にも役に立てることがあるのだと、活動の喜びを実感することができました。また学校に子ども達を招いて、一緒に遊んだりお菓子作りなどをしました。その日のために放課後も遅くまで残って準備をするのはとても大変でしたが、子ども達の楽しそうな姿や笑顔を見ると、やって良かったと充実感を得ることができました。

また活動を通して、先頭に立って動くことの大切さやリーダーとしての難しさを実感しました。思い通りにいかず、悔しい思いもたくさんしましたが、その度にクラブ員や先生に助けられました。自分一人ではできないことも、仲間や協力してくれる方々がいるからこそ、様々な活動が成り立つのだということ。そしてたくさんの方々が温かく見守り支えてくださっているから、多くの活動を成し遂げることができたのだと知ることができました。

人生においてこの3年間はとても短いものですが、私にとって一つ一つが貴重な体験であり、とても大切な時間となっていたことを、改めて実感することができました。これからも周囲への感謝の気持ちを忘れず、三瓶高校で学んできたことをこれからの人生に活かしていきたいです。



## 高校生活の思い出

平成28年度卒業

堀内 遥平

三瓶高校創立100周年、卒業生として嬉しく思う。

私の曾祖母は山下女学校、祖父、母、私と弟は三瓶高校、家族の4世代が卒業生である。4世代が地元の高校で、地域の中で高校生活を送ったことは当たり前のように思っていたが、それは貴重な経験だったのかもしれない。なぜなら、三瓶高校でなければ経験できなかったことが家族それぞれにあり、その思い出が今でも鮮明に蘇るからだ。

身内で集まって食事会をする時は、必ずといってよい程、部活動の話がでる。それぞれの楽しい思い出や失敗談、世代を超えて盛り上がる。

私は陸上競技部でやり投げをやっていた。競技においては、3年生の時に運よく四国大会へ進んだ。四国大会後の「小さい学校でも全国と戦えるところを見せてほしい」という恩師の言葉を翌日の新聞で見た。試合で記録が伸びて行く頃で、この時点では全国の厳しさをまだ知らなかったように思う。

インターハイは予選を通過したものの、全国大会の難しさを感じた試合だった。

国体に向けての練習は、今まで自分に甘かった所を見直し、トレーニングを積み、技術面では指導していただいた事を再現できるように心掛けた。そして国体本番は良い緊張感の中で投げることができ、自己ベストで表彰台に上がることもできた。

恩師の「小さい学校でも戦える」という言葉と、地元の方々の声援が支えてくれた。

これからも身内や仲間と集まる時は、それぞれの三瓶高校での思い出話をして盛り上がりたいと思う。



## 高校

平成31年度卒業 邦楽部員

亀島 瑠李

三瓶高校創立100周年おめでとうございます。今は分校となっていますが、あえて高校と書かせてください。

卒業してから1年があつという間に経ってしまいました。大学生活を送る中でも高校でのことは度々思い出します。何か力が無くなった時とかに自分が経験したことを思い出すと、自分はまだ大丈夫だと錯覚を起こさせるほどのエネルギーが高校生活というものにはあります。体育の授業後の汗臭いにおい、季節によって寒暖差の激しい教室、放課後に買うココア。ちょっとしたことも案外覚えているものです。

記事の依頼があつてから改めてじっくりと高校生活を振り返ってみました。中学が同じでも話をしなかった人と話すようになったり、面白い先生方に出会ったり。人にはとても恵まれていたと思います。それがなければ私は今、とてもつまらない生活を送っていることになっていたかもしれません。

高校の大きな経験として部活動のことを挙げたいと思います。私は邦楽部に入部をして箏を始めました。高校に入学したらやりたいと思っていたわけではなかったのですが、ピアノ以外の楽器を試してみたくて入部をしました。先輩方や講師の先生方の支えもあり部として全国大会に出場できたことは何歳になっても自慢の一つです。結果は納得いくものではありませんでしたが、結果を求めすぎるとパフォーマンスすることに頭が回らないということに気づいたので悔いはありません。大学でも箏は続けていて部の部長を務めており、軽音と箏のジャンルの異なる音楽に触れて生活をしています。

3年間で自分を見せること・伝えることが好きになれたのは大きな変化でした。自分の考えを伝える機会が多くあったことが変化に繋がったのかなと感じています。大学生活を送り始めて約1年半が経ちました。周りの環境、生活に関わる人、考えていた将来像も変化しました。今、新たにやりたいことを持っているのは高校での生活が全て土台となっているからです。私は最近、三瓶から高校がなくなる可能性があることに対し危機感を持っている人が少ないと感じています。人数が少ないからこの高校を選ばない人がいるなら、それはおかしい。この機会にそれぞれが町の高校について考えてみませんか。

# 記念講演会

令和2年11月7日(土)  
宇和高等学校三瓶分校体育館

坂村真民記念館館長

西澤孝一氏

## 演題 「坂村真民の心のふるさと、三瓶の思い出」

**PROFILE** 昭和23年愛媛県生まれ。16歳のときに坂村真民と出会う。18歳で真民の詩に感銘を受け愛読書となる。大学を卒業後、愛媛県庁に就職し定年まで勤める。その間、真民の三女・真美子と結婚。真民の晩年を共に過ごし、最期を看取る。平成24年より坂村真民記念館館長。著書「かなしみをあたためあってあるいてゆこう」



### はじめに

三瓶高校の創立100周年記念の栄えある日に記念講演をさせていただくことに、心から感謝しお礼を申し上げます。坂村真民もどんなにか喜んでくれていると思います。

一つの町に100年続く学校があるということは町の誇りであり、それを支えてきた三瓶の皆さんの教育と文化への熱い思いがあればこそだと思います。三瓶の町には古くから朝日座、朝日文楽という演劇や伝統芸能を大切にす文化があり、文化の香りが漂う町であり、坂村真民もそういう町の風土と文化が非常に好きで、学校の生徒と一緒に演劇団を作って三瓶湾の集落を一周して合計12回の公演をして回ったり、朝日座で真民演出の劇を開催したり、三瓶の人たちと共に楽しんでいた時代がありました。

本当に真民にとっては三瓶の町は九州の熊本からやって来た人間を心から優しく迎え入れてくれ親切に接してくれた生涯忘れられない心の故郷なのです。今日はそういう三瓶の町の思い出と、真民が心を込めて三瓶の人たちに残していった置き土産についてお話してみたいと思います。

### 1. 三瓶の思い出

坂村真民が九州から遠く離れたこの愛媛の三瓶にやって来たのは戦後朝鮮から引き揚げてきて、郷里の熊本で就職先を探していたのですが、仕事がなく困っていた時に当時の第二山下高等女学校の校長をされていた佐伯秀雄先生が、ここで働いてみないかと誘われたのがきっかけです。佐伯先生とは短歌雑誌を通して真民は若い時は短歌を作っていましたので、その雑誌を通して佐伯先生を知っていたのですが、

そのお誘いの手紙で、この山下高等女学校は海運王の山下亀三郎氏が、お母さんへの恩返しの意味で、お母さんの生まれ故郷である三瓶にお母さんのような女性を育てる学校を設立したという、学校設立の趣旨を書かれてまして、真民は朝鮮でも女学校の先生をしていて、真民自身もお母さんへの恩返しのために女子教育をしたいという夢があったのです。

そういう創立者の思いがある学校なら、是非行きたいという気持ちになり、この三瓶にやって来たという経緯があるのです。そうしてやって来た、この三瓶の町は穏やかな海辺の町で、人情熱い人々が住み、真民にとっては心から休まる町となったのです。戦後の混乱期の中で、これからどう自分の人生を生きていくか、という人生で一番大変な時期を、この三瓶の土地で過ごせたことが、この後の真民の人生に大きく影響を与えたのです。

### 2. 坂村真民が三瓶に残した置き土産

坂村真民が生涯、心のふるさととして、この三瓶の町を懐かしく大切に思い、辛い時や困難にぶつかった時にもいつも思い出し、自分を励ましてくれるのが、この三瓶時代の懐かしい人々の優しさで、その時の自分の純粋な気持ちなのだ、毎日書いていた日記の中に書き残しています。

そういう真民が三瓶の町に三瓶の人々に残していった置き土産があります。まず、坂村真民の第1詩集であり、真民自身が一番好きな詩集である「六魚庵天国」という詩集です。

#### ①詩集「六魚庵天国」

この詩集はこの表紙の裏に「昭和21年5月から昭和25年3月まで、四

国南海岸三瓶町における生活ポエム」である、と書かれていますようにこの三瓶での、真民家族の生活を詠った詩を集めた詩集です。「六魚庵」というのは6匹の魚が住む、小さな庵、という意味で、真民夫婦と、3人の娘で5匹、それに朝鮮時代に生まれてすぐ亡くした子供があり、真民はその子も入れて、全部で6匹の魚と言っているのです。ですから六魚庵というのは真民の家族のことであり、真民の住む家のことなのです。この詩集のタイトルにもなっている、六魚庵天国という詩をご紹介します。



#### 真民詩「六魚庵天国」

この「六魚庵」というのはムカデヤナメクジが住みつき、じめじめした家でお世辞にも「天国」とは言えない家だがと、真民はその詩集に書いていますが、家族の待つその家はやはり真民にとっては心が休まる唯一の天国だったのでしょう。職場で辛いことや嫌なことがあっても、六魚庵に灯った明りを見て、子供たちの明るい声を聞くと、本当に心が休まり、安心したのだと思います。この詩は家族を詠った真民詩の中でも、最も愛読されている詩の一つになっています。昭和21年5月から昭和25年3月までの、三瓶での4年間の生活を詠った詩を集

めた、この「六魚庵天国」は坂村真民の詩人としての最初の大変な詩集であり、真民詩の原点となる詩集であり、真民が生涯で最も愛した詩集なのです。三瓶の町の人々のやさしさ、温かさがあって初めてこの詩集が生まれたのであり、この三瓶の町は真民の詩人としての出発地であり、心のふるさとなのです。

次にこの三瓶の町には真民の詩碑が二つ、歌碑が一つ、そして皆さんに歌い継がれる「歌の歌詞」が五つ残っています。

## ②三つの歌碑と詩碑、六つの歌

(S59.5 高福寺境内 (第25番碑)  
「念ずれば花ひらく」)



1 番目の詩碑は昭和58年に建てられた、津布理の高福寺の「念ずれば花ひらく」碑です。この碑は真民と交流があった、石見よね子先生を中心としたゆかりの人たちが、詩碑建立委員会を立ち上げて、寄付を募り、作ってくださった碑です。真民もこの碑の除幕式に参列して、三瓶の人々へのお礼を込めて詩を作っています。

(S60.5 妙見堂境内 (第43番碑)  
「念ずれば花ひらく」)



2 番目の詩碑は昭和60年に建てられた、朝立の山の中腹にある、妙見堂の「念ずれば花ひらく」碑です。この碑はこの妙見堂の復活を願って、お参りする人が増えるようにと願いを込めて、加藤マキコさんが中心となって建立されたものです。

(H4.5 三瓶文化会館前 (213番碑)  
「短歌」)



3 番目の歌碑は平成4年に三瓶の真民詩の愛好者が、三瓶文化会館前に建てられたもので、全国に800以上ある真民の詩碑の中で唯一の歌碑となっています。真民が自ら選んだ短歌は三瓶の町を詠ったもので、歌碑の裏側には「涼しい風を吸うて育った人たちはみな鈴のような仏心を持つのであろうか移り住んだ静かな港の町、三瓶という処はわたしたち一家を心から迎えてくれた」と、真民のこの碑に込めた思いが刻まれています。

(郷土歌 三瓶の歌)

この歌は昭和23年に作られたもので、その年の12月に朝日座でこの歌に踊りを振り付けた「新作舞踏の発表会」が行われています。この写真がその時のものです。



(三瓶高校生歌)

この楽譜には昭和23年11月18日作曲と書かれていますが、学校の記録で正式に制定された日は昭和25年12月となっています。戦後の学制改革で、山下高等女学校が新製の県立三瓶高校になったのを契機として作られたのではないかと考えられます。

三瓶高校の校歌ができるのが、この8年後ですから校歌の代わりとしても歌われていたのではないのでしょうか。



(三瓶高校校歌)

昭和31年10月に制定された。この校歌の制作の意図を、真民は「校歌はその土地に根差し、生徒の心のなかに深く成長し、しかも卒業後も人間形成に永く影響を与えるものでなくてはならない。そのためには郷土性を持つと同時に世界性を具有すべきである。

それに尚、三瓶高校には独自の創立精神が燦として存在する。一は学生の行くべき道を示し、二は山下翁設立の精神と東洋孝道之美しさを歌い、三はよき郷土民として、民主的人間の理想を歌わんとしたものである。」と書き残しています。

(三瓶繁栄歌、三瓶小唄、三瓶音頭)

資料等としては残っていないのですが、三瓶の皆さんからの聞き取り調査の中で、この三つの歌も真民が作詞し、当時はよく歌われていたということでした。皆さんの中にも、この歌の歌詞とかを保存されている人がいましたら、是非記念館に送ってくださればありがたいです。

③コギトの泉

三瓶高校の卒業生、在校生にとって、この「コギトの泉」というのは特別な存在だと思います。この「コギトの泉」の名前を付けたのが、坂村真民なのです。このコギトという言葉は皆さんもご承知だと思いますが、フランスの有名な哲学者、デカルトの「我思

う、故に我在り」という命題のラテン語「コギト、エルゴ、スム」の「我思う」という言葉から取ってきたものです。真民は当時の三瓶高校の生徒に我の存在、自分という人間の存在を考え、大切にしたい、そして、人間として生きてゆくうえで、一番大切なものは「自分らしさ」を持つことなのだ、ということを考えて生きていって欲しいと思い、この名前を付けたのです。この思いを詠った詩として「存在」という詩があります。

この詩は昭和38年、真民が54歳頃に作られたものです。真民はこの詩について「若い人よ、この何より尊い自己の存在感を確認して、強く人生を生きよ」と言っています。

「四国の片隅に居て、まだまだ詩人として認められていないが、この愛媛の宇和島に“坂村真民”という詩人がしっかりと存在するのだ」ということを、高らかに宣言している詩であると言えます。皆さんも、この、世界に一人しかいない、自分という存在を再認識し、自信をもって世界に羽ばたいていってください。



さて、ここからは高校生の皆さんに真民からの、若い人へのメッセージとなっている詩をご紹介します。まず「若者よ」という詩をご紹介します。

「若者よ」

この詩は真民が73歳の時の詩です。真民は若い人を大切に、応援する気持ちで、いつも強く持っていました。高校の先生をしていたときには生徒が経済的に苦勞をしているのを見て学費の援助をしたり、家庭の事情で学校の出席日数が足りない生徒を、職員会議で一生懸命かばったりしていました。

この詩の中で「わたしのことなど忘れてくれ」とは「新しい時代に向かって、前に進んでくれ」ということです。また「人まねはするな」「どんな小さな花でもいいから、自分の花を咲かせることだ」とも言っています。

この「どんな小さな花でもいいから、自分の花を咲かせること」というのが、坂村真民の生き方そのものでもあり、真民から若者に送る、真民の「メッセージ」なのだと思います。

次にご紹介するのは「時間をかけて」という詩です。

「時間をかけて」

この詩は真民が66歳の時の詩です。真民の生き方を、よく表している詩だと思います。笑われても、馬鹿にされても、自分の道をまっすぐ歩み続けることはとても勇気がいることです。時には寄り道もするし、少し曲がった道になることもあるでしょう。しかし、どこかで少しずつ修正をしながらでも、時間をかけて、自分の道をまっすぐ歩み続けることが大事なのだと思います。

そして、最後の「時間をかけて磨いてゆこう」という言葉が、坂村真民が読者の皆さんに一番伝えたいことなのだと思います。毎日、こつこつと、時間をかけて、自分を磨いてゆく、これが坂村真民が生涯実践した生き方であり、皆さんに呼びかけている生き方なのです。



(1) 人はなぜ学ぶのか

高校生の皆さんはもちろん、大人の方も「何かを学ぶ」と言うことは生涯続けていかなければならないと思います。色んな本を読み色んな人の声を聞

き自分自身も色んな経験、体験をして、世の中の仕組みや人間として生きるうえで、どんな生き方があるのか、それらを知るためには学び続けることが必要です。学び方は色々あると思います。高校で学び、その後も、専門学校、大学で学ぶ、社会人となって会社で学ぶ、働きながら学校へ行って学ぶ、地域の団体で学ぶ、様々な学びの場があると思います。

何のために学ぶのかと言えば、究極的には自分という存在を、最も輝かせるものは何か、自分は何のために生まれてきたのか、その答えを見つけるためではないでしょうか。そのことを詠った詩をご紹介します。「こつこつ」という詩です。



この詩は真民が57歳の時に作られた詩です。坂村真民の生き方を、簡潔明瞭に表している詩だと思います。この「こつこつ」というのが、坂村真民の生き方を象徴する言葉であり、真髓なんです。

一本の道を、ゆっくりと、一步ずつ、歩きながら生きてゆくことです。詩を書くうえで人間としてどう生きるかを、苦しみながら悩みながら毎日毎日こつこつと書き続ける。そして一番大切なのが最後の「こつこつ、こつこつ、掘ってゆこう」というところではないでしょうか。真民は詩を書くことも、仏教の教えを学ぶことも、すべて自分という人間をいかに人間として掘り下げてゆくか、ということをもいつも考え、生きて来た人間です。人より一時間でも三十分でも早く起きて、こつこつと自分を作りあげてゆくことを生涯実践した人でした。自分の人生は自分で切り開いていかなければなりません。

そのための努力なのです。こつこつ、一歩一歩、この積み重ねが大事なのだ、と真民は言っているのです。若いうちは色んな経験、体験、それも辛い、苦しい、悲しい体験を積み重ねておくことが大事だ、と言ってる詩もあります。

もう一つ「鈍刀を磨く」という詩をご紹介します。

### 「鈍刀を磨く」

この詩は真民が75歳の時の詩です。鈍刀というのはいくら磨いても光らないかもしれないが、そういう声に耳を貸すことなく、せっせと磨くことに専念し一生懸命磨いておれば、磨く本人が変わってくる、つまり磨く本人を光るものにしてくれるのだ、その努力をすることが大事なんだ、と真民は言っているのです。真民も名刀のような光る人間ではなく、鈍刀のような人間でしたので、自分自身を光るものにしてくれるために鈍刀を磨き続けた人間でした。「甚深微妙(じんじんみみょう)」というのは仏教の世界で、法要や毎日のお勤めの前に必ず読まれる「開経偈」というお経の最初に出てくる言葉で「甚深微妙の世界」とは「はなはだ深く、計り知れないほど見事な世界」という意味です。

### (2) 生きることの大切さ

次に人間として生きるうえで、どんなに苦しく辛くても、前を向いて生きることが大事だ、という真民の想いが詰まった詩をご紹介します。

「鳥は飛ばねばならぬ」という詩です。

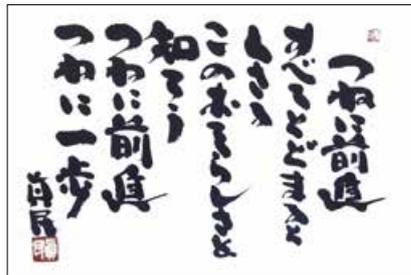
この詩は昭和51年、真民が66歳の時に作られたものです。真民は世尊が、仏様のことですね、80年の生涯を身をもって示されたのは「人は生きねばならぬ」ということだったのだ、と元旦に悟り、この詩を作ったと言っています。この詩で真民が訴えているのは「闇の向こうには必ず光がある」ということと「人は生まれてきたからには最善を尽くして生きなければならない」ということです。

この詩は東日本大震災の後、東北で被災された方々が真民の詩を読んで、生きる勇気と希望をもらった、と言ってくたさる時、まず一番に挙げられるのがこの詩なのです。「人は生まれてきたからには生きなければならない」ということを「生きねばならぬ」という断定の言葉として書いていますね。これが、真民自身の強い信念と人間に対する希望の表れだと思います。

次に「つねに前進」という詩をご紹介します。

この詩は真民が61歳の時の詩ですね。この詩は真民が尊敬していた二人の仏教の祖師、一遍上人と、空也上人が、県立美術館で並んで展示されていたのを見て、その感動を詩にしたものです。その時、真民はこの二人の足を見て、空也上人は左足を、一遍上人は

右足を出した姿に気が付いたのです。普通、こういう像は両足をそろえて立っている姿を彫っているものですが、二人とも今にも歩き出すかのようにそれぞれ前に向かって、足を出していたのです。民衆とともに生きた二人の、清楚な木像の前に立って、真民はこの二人の姿に感銘を受け、その生き方に感動し、自分もこういう生き方をしてゆこう、どんなに辛くても、前を向いて歩いてゆこうと決意して、この詩が生まれてきたのだと思います。



### 3. コロナと共に生きてゆくために

最後にコロナ禍の現在、まだまだ収束の見込みは見えてきません。ウイルスというのは長い人類の歴史の中で、常に私たちの周りに存在するもので、ある意味では人類の進歩はコロナウイルスを含めた、こうしたウイルスと共存することによって進化してきたのだと生物学者は言っています。だから、私たちはコロナウイルスを敵と見て対立するのではなく、これからの長い時間を共に生きてゆく、生きてゆかざるを得ないものとして考えなければならぬと思います。

私たちはこの現実をしっかりと見据え「新しい生活様式」による「生き方」を、それぞれの個人が「個人の自覚と責任」を持って行くことが大切になってくると思います。このような思いは東日本大震災の後

に多くの人が「これまでの生き方を見直して、生活の質を変えていかなければならない。」と思った、あの思いと共通するものがあります。そして、自然と浮かんできたのが「あとからくる者のために」という真民の詩です。

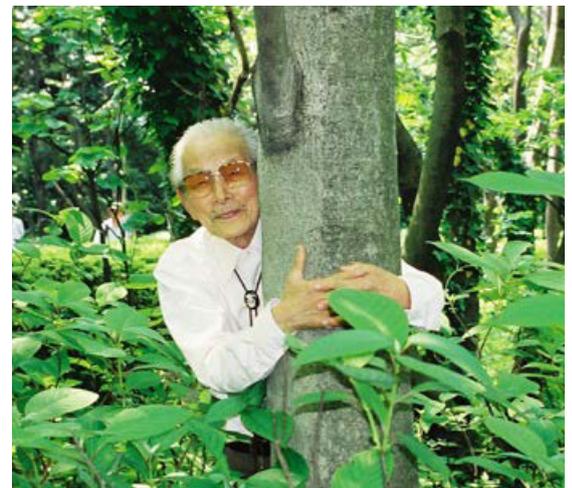
コロナと共に生きていくための「人間としての生き方」がここに書かれていると思います。そんなに難しいことではないのです。私たち一人ひとりが、周りの人を守り、自分を守るために「マスクを着ける。手洗いうがいをする。3密を避ける。」という基本的な生活様式を守ることを心がければいいのです。

「あとからくる者のために」という詩をご紹介します。

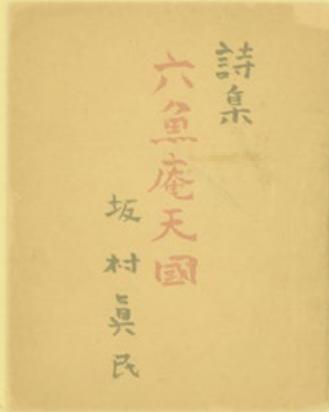
世界の国の中には自分ファーストの姿勢を鮮明にしている国もあります。日本でもこのコロナを利用して、自分の金もうけだけに必死になってる人がいます。こういう時代だからこそ、自分のことは少し我慢して、少し苦勞してでも、周りに困っている人がいればその人のことを考えてあげ、一緒になってこの困難を乗り越えていきたいものです。何か自分にできることを探して、小さなことから始めてみませんか。二度とない人生なのです。自分の人生をしっかりと見据え、前に向かって生きていきましょう。

三瓶高校生の皆さん、皆さんは一人ひとりが無限の可能性を持った「ダイヤモンドの原石」なのです。どうか、それをこつこつと磨き、自分の花を咲かせてください。

いつの日か三瓶分校が、三瓶高校に復活する日を、心から願って私の話を終わりたいと思います。ご清聴、ありがとうございました。



## 真民詩抄



### 存在 (54歳)

ザコはザコなり  
大海を泳ぎ  
われはわれなり  
大地を歩く

### 六魚庵天国 (40歳)

悲しみを噛みしめて帰る六魚庵に  
明るいあかりがともっている  
煮たきの香りがながれている  
こどものこえがひびいている  
山羊がしきりに呼んでいる  
六魚庵はやっぱり天国だ  
さみしいわたしの安息所だ

### 時間をかけて (66歳)

あせるな  
いそぐな  
ぐらぐらするな  
馬鹿にされようと  
笑われようと  
自分の道をまっすぐゆこう  
時間をかけてみがついてゆこう

### 若者よ (73歳)

若者よ  
わたしのことなど忘れてくれ  
そして前進してくれ  
若い者は若い者らしい  
夢と希望とを持って  
自分で自分の道を  
切り開いてゆくべきだ  
人まねはするな  
どんな小さい花でもいい  
自分の花を咲かせることだ

### 鈍刀を磨く (75歳)

鈍刀をいくら磨いても  
無駄なことだというが  
何もそんなことばに  
耳を貸す必要はない  
せつせと磨くのだ  
刀は光らないかも知れないが  
磨く本人が変わってくる  
つまり刀がすまぬすまぬと言いながら  
磨く本人を  
光るものにしてくれるのだ  
そこが甚深微妙の世界だ  
だからせつせと磨くのだ

### こつこつ (57歳)

こつこつこつこつ  
書いてゆこう  
こつこつこつこつ  
歩いてゆこう  
こつこつこつこつ  
掘つてゆこう





鳥は飛ばねばならぬ (66歳)

鳥は飛ばねばならぬ  
 人は生きねばならぬ  
 怒濤の海を  
 飛びゆく鳥のように  
 混沌の世を生きねばならぬ  
 鳥は本能的に  
 暗黒を突破すれば  
 光明の島に着くことを知っている  
 そのように人も  
 一寸先は闇ではなく  
 光であることを知らねばならぬ  
 新しい年を迎えた日の朝  
 わたしに与えられた命題  
 鳥は飛ばねばならぬ  
 人は生きねばならぬ

つねに前進 (61歳)

すべてとどまると  
 くさる  
 このおそろしさを  
 知ろう  
 つねに前進  
 つねに一步  
 空也は左足を出し  
 一遍は右足を出している  
 あの姿を  
 拝してゆこう



あとからくる者のために (92歳)

あとからくる者のために  
 田畑を耕し  
 種を用意しておくのだ  
 山を  
 川を  
 海を  
 きれいにしておくのだ  
 ああ  
 あとから来る者のために  
 苦勞をし  
 我慢をし  
 みなそれぞれの力を傾けるのだ  
 あとからあとから続いてくる  
 あの可愛い者たちのために  
 みなそれぞれ自分にできる  
 何かをしてゆくのだ

# 職員一同 (大正14年～令和2年)



大正14年



昭和6年



昭和35年



昭和41年



昭和47年



昭和50年



昭和55年



昭和58年



昭和60年



平成32年



平成5年



平成8年



平成9年



平成12年



平成15年



平成18年



平成21年



平成24年



平成27年



平成28年



平成30年



令和2年

# ANNUAL EVENTS & SCENES 年間行事

## 4月

- ・入学式
- ・語の日
- ・スポーツテスト・身体測定
- ・校母祭
- ・1年生集団宿泊研修
- ・県総体南予予選
- ・生徒総会・家庭クラブ総会



## 5月

- ・サバイバルウォーク
- ・1年生総合的な探究の時間
- ・街頭指導
- ・防災避難訓練
- ・ボランティア活動
- ・県総体壮行会
- ・奉仕活動



## 6月

- ・県総体総合開会式
- ・ジオパーク研究
- ・歯科検診
- ・野球応援
- ・人権・同和教育 HR 活動
- ・四国総体
- ・救急法講習会



## 7月

- ・野球応援練習
- ・保育園バザー手伝い
- ・クラスマッチ
- ・奉仕活動
- ・宇和特別支援交流会
- ・かななフラワー講習会
- ・中学生1日体験入学



## 8月

- ・家庭クラブ研究発表大会
- ・テニス夏季大会南予地区予選
- ・奥地の海のかーにばる
- ・陸上競技新人大会
- ・沖縄インターハイ陸上競技
- ・ベトナム技能研修生との交流
- ・体育祭の練習



## 9月

- ・体育祭準備
- ・野球秋季大会
- ・ソフトテニス新人大会
- ・特別清掃
- ・体育祭
- ・2年生調理実習
- ・せんたんミーティング



## 10月

- ・修学旅行
- ・1年就業体験
- ・2年保育実習
- ・銀ちゃんの仮想大賞
- ・茶道部
- ・原子力防災訓練
- ・卓球新人戦



## 11月

- ・文化祭
- ・マラソン大会
- ・高文祭（吹奏楽部）
- ・あいさつ運動
- ・2年生調理実習
- ・ハンドベル練習
- ・宇和特別支援学校文化祭参加



## 12月

- ・1, 2年進路説明会
- ・宮中雲子音楽祭
- ・3年生食育講座
- ・主権者教育
- ・コスモス館クリスマス会
- ・クラスマッチ
- ・終業式



## 1月

- ・始業式
- ・ドローン講習会
- ・町内マラソン・駅伝大会
- ・全校集会（教職員講話）
- ・2年生総合学習（琴）
- ・エネルギー授業
- ・西予市模擬議会参加



## 2月

- ・コンソーシアム
- ・2年生調理実習
- ・1年生総合探究発表会
- ・年金セミナー
- ・かななフラワー講習会
- ・バレンタインデーチョコ配り
- ・八幡浜地区合同生徒研究発表会



## 3月

- ・卒業式
- ・登校日
- ・ワックス掛け
- ・高校入試合格発表
- ・合格者登校日
- ・離任式



## 部活動・授業風景



美術部



吹奏楽部



伝統芸能部



自然科学部



将棋部



VYS部



ソフトテニス部



卓球部 (男子)



卓球部 (女子)



野球部



陸上競技部



家庭クラブ



生徒会





## 校内の風景



愛媛県立宇和高等学校三瓶分校

校門アプローチ



運動場の社



卓球場



国旗掲揚台



玄関



中庭



体育館



裏門



本館



グラウンド



特別教棟



4F 渡り廊下



校長室



商業教室



会議室



武道場



和室



調理室



音楽室



コギトの泉



進路室



図書室



夢叶室



視聴覚室

## 三瓶町の風景





## 編集後記

三瓶の地に生まれた高校が百歳を迎えました。約三世代に渡って人を育て、数々の経験と思い出を我々に与えてくれた学び舎。古い校舎が消え、新しい校舎が建ち、校名も変わりましたが、卒業生にとって学び舎での三年間の記憶は、きっと一生の宝物でしょう。だから自分の人生の一時を過ごした学校が消えて無くなることは、非常に寂しいことだと思います。101年、102年と学校を存続させることが私たちの願いであります。この記念誌を手にした方々のお力添えをお願いいたします。

本記念誌は、写真を中心にまとめ、手にする人が昔を振り返り、思い出を語り合っただけのようにと願って制作しました。また、本記念誌を開いたときに校歌が流れてくるような感じにしたいと思いました。昭和31年、坂村真民作詞、中田喜直作曲の校歌が私たちは大好きです。是非、思い出を一つとする友人と会ったら、当時を思い出し歌ってください。♪たちばなの花は薫り、みんなみの潮はひびく〜♪と。

三瓶高校よ、我々の記憶の中に永遠であれ。三瓶高校、ありがとう。

最後になりましたが、本記念誌を制作するにあたり、寄稿文に執筆のお願いをしたところ、お忙しい中、快くお引き受けくださった卒業生、旧職員の皆様、本当にありがとうございました。この場を借りて、お礼申し上げます。

編集委員一同

## 編集委員

清家 亮太    三好 章子    山下 好夫  
宮崎 稔    藤原 治永    水崎 誠一

## 創立100周年記念誌

令和3年3月25日 発行  
愛媛県立宇和高等学校三瓶分校  
〒796-0908 愛媛県西予市三瓶町津布理3463番地  
TEL 0894-33-0033 FAX 0894-33-0538  
URL <https://mikame-h.esnet.ed.jp/>

印刷／小野高速印刷株式会社  
〒870-0913 大分市松原町2丁目1-6 TEL 097-558-3444 FAX 097-552-2301  
※掲載されている各種資料・写真は、デジタル化され当社内に保存しています。





祝創立10周年  
愛媛県立宇和高等専門学校

MIKAME



